

作文・絵作文コンクール  
優秀作品集  
(令和3年度版)



全国の附属学校園の子どもたちが先生との思い出や感謝の気持ちを  
作文・絵作文で表現したものを一冊の作品にまとめました



一般社団法人 全国国立大学附属学校PTA連合会

# 作文・絵作文コンクール」に寄せて

この度、一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会主催の第4回「作文・絵作文コンクール」が開催され、全国の幼児・児童・生徒の皆様から多数の応募を得て、大変充実した取組となったことを心よりお喜び申し上げます。

長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、子供たちの安全を守りながら学びを止めない取組を継続する一方で、非常にかげがえのない学校生活に制限が出ている中で、保護者や教職員の方々が一致団結して子供たちの成長を願い、少しでもよりよい環境を作りたいと、様々な創意工夫を行っていただいていることに、心より感謝申し上げます。

「教育は人なり」と言われるように、教師は子供たちの人生を変える存在であり、人とのかかわり合いの中で自身も成長することができる、大変魅力ある職業です。本コンクールの入賞作品からは、教師と交わした日頃の何気ない会話や行動から子供たちが感じる、教師に対する尊敬の念や感謝の気持ちが伝わってきて、教師が子供たちの心を育て、将来へ導く大切な価値ある職業として認識され、教師自身の志気を高めることにつながる、極めて有意義な取組であると思います。

今後とも、本コンクールの更なる充実とともに、国立大学附属学校がより一層、全国の学校をリードし、我が国の教育の発展に寄与する存在として発展されることを祈念いたします。

文部科学省 総合教育政策局 教育人材政策課

課長 小幡 泰弘



# ご挨拶

平素は（一社）全国国立大学附属学校PTA連合会の事業にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。「作文・絵作文コンクール」の開催および優秀作品集の発行にあたり、主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

今年で第4回目を迎えた「作文・絵作文コンクール」は、わが国の教育を支えて下さっている教職員の皆様へ感謝の気持ちを届けたい、そして、その感謝の気持ちを表す「教師の日」の制定へ向け、国立大学附属学校のPTAとして支援する目的で企画・開催されてきました。

今年度もたくさんの応募をいただき、コロナ禍の様々な制約を受けながら、子どもたちがいつも通りの気持ちで学校生活が送れるようご尽力いただいている先生方の姿が作品の中から感じられました。また、先生という存在は子どもたちにとってとても大きく、子どもたちは先生方の言葉一つ一つや一緒に過ごす時間から多くのことを学び成長していくのだと改めて感じました。

この作品集が、子どもたちから全国の教職員の皆様に感謝の気持ちとなって届きますよう、そして、教員をめざす学生の皆様にも手に取って読んでいただくことが出来たら幸いです。

最後になりましたが、本コンクールを開催するにあたり、ご多忙の中、審査委員長を快くお引き受けくださいました児童文学作家のくすのきしげのり先生に感謝の意を表するとともに、たくさんの感謝の気持ちを作文・絵作文にして応募してくれた全国の子どもたちが、これからも健やかに成長されることを、心より御祈念申し上げます。

一般社団法人 全国国立大学附属学校PTA連合会

会 長 大竹 昌士



「人間だ、ていろいろな人がいるんだから、植物だ、てそうなんじゃない。」  
 と言われました。そうして水をあげていると、小さな小さなめがでてきました。まわりとくらべると、とても小さいめだけれど、とてもかわいくて、がんばってめをたしてくれました。だと思おうれしくてたまりませんでした。ぼくも、知らず知らずのうちに、人とくらべていたんだなと思いました。  
 田中先生は、M星人の地球旅行のばきや、花と野さいのたねを植える事から、みんなちがってみんない、人とくらべなくて良いと言おう事をつたえたが、たのではないかと思いません。ぼくとお母さんは家族だけれども、ちがう人、友だちは大切なそんざいだけれども、ちがう人なので、ちがってあたりまえなのだと思いません。学校の中では、ルールは大事だし、みんなできょうかする事も大切で、でも一人一人はちがう人間なんだという事を考えながら、その人それぞれのおつうをみとめ

ていきたいと思いまち。ぼくもぼくらしくがんばっていきたいです。

～くすのき先生からのひと言～

学芸会での劇『M星人の地球旅行』で考えた「人と違うのは悪いことではない」ということ、ふだんの生活の中でよく使う「ふつう」という言葉への疑問、そして自分が植えたビオラの花の生育から個体の成長差と、それは自然なことであるという気づき。先生や友だちとの学校生活の中で「みんなちがってみんない」ということを実感できた様子がよくわかります。他者と自分の差異を認めながら、自分らしくがんばっていきたいという思いを心から応援します。

# 会長賞

福岡教育大学附属福岡小学校 3年 川野 結太

ふつうって何だろう  
附属福岡小学校 三年 川野 ゆう太  
みんなちがってみんないい。これは、たんに  
の田中先生からぼくが教えてもらった事  
です。月見学びい会では、M星人の地球旅行  
というげきをやりました。みんなで同じ事を  
やるのが良い、人とかうこととは良くない事  
だという考えのM星人が地球の子供たちと  
出会い、人とかう事は悪くないのだと考え  
方がかわっていく話です。  
ぼくは、ふつうって何だろうとずっと思っ  
ていました。ふつうは「そうする」や、ふつ  
うは「そんな事思わない」など、よくふつう  
という言葉聞きません。しかし、人のふつう  
とぼくのふつうはちがう事もあるのと思っ  
ていました。だからとくらべて、人とかう  
からといってふつうではない、多数決で少な  
い意見だからふつうではないというのは、お  
かしいなと思っっていました。だからM星人の  
地球旅行の内ようを知った時、うれしい気持ち

ちでした。  
科学のじゆ業では、花や野菜を植えます  
た。まず、自分で好きがたねをえらびます。  
そして、一人で植えるか、友だちと植えるか  
をえらびました。ぼくはビオラの花を一人で  
植える事にしました。お母さんに話をした時  
「一人で植えるの」  
と少し心ばいそうに願が聞かれました。ぼく  
は、  
「自分で植えて、自分できちんと水をあげて、  
どんな花がさくのか見たいんだよ。」  
と言いました。お母さんは安心した顔で、  
「じゃあ、自分のせきにんだから、まちゃんと  
おせあしなないとね。」  
と言ってくれました。しばらくして、みんな  
のたねからはどんなめがでてきました。ぼ  
くのは、全く出てきません。ぼくは、みんな  
に負けてしまっただよな気持ちになっ、いま  
した。お母さんにまだめがでないという話を  
した時に、



# 優秀賞 絵作文

愛知教育大学附属幼稚園 年長 柳本 彩羽



せんせいだいすき  
 あいちぎょういっく大かく小ぞく  
 ようちえん 年長 やなぎ本 彩羽  
 ようちえんのあるひは、はやくせんせいと  
 あそびたいな、なにしてあそぼうかな、たの  
 しみなきもちでとうえんしているよ。  
 せんせいのあかおをみたらうれしくて、わら  
 ちがうよ。  
 せんせいと、おともだちとする、バツがポー  
 ルは、すぶくたのしりよ。  
 ポールがこちにくるかな、ボールがけれる  
 かなって、いつもどきどきおくわくするの  
 たのしいよ。  
 せんせいに、ボールをなげるのがじょうずに  
 なったねっていわれて、とてもうれしくて、  
 も。とじょうずになりたいとおもったよ。  
 せんせい、またいっばいあそぼうね。  
 あおきせんせい、いつもいっばいあそんで  
 くれてありがとう。  
 あおきせんせいだいすき。

～くすのき先生からのひと言～

何をして遊ぼうかと考えながら毎日登園しているのですね。先生や友だちとする楽しいドッジボールの様子が巧みに描かれています。





# 優秀賞 絵作文

福岡教育大学附属小倉小学校

4年 岩田 優馬



学校名 福教大附属小倉小学校

名前 岩田 優馬

失きらいな勉強が  
福教大附属小倉小学校 四年 岩田 優馬  
これは、ぼくが大好きな二年生の時のたんにの先生の話です。  
ぼくは今まで、勉強を楽しんだ事はありませんでした。ぼく的には、「勉強は辛い事だ」と思っていました。しかし、その先生から受けた授業はすごく楽しかったです。なぜなら、その先生は勉強を教えるのではなく、「勉強の楽しさ」を教えてくれたからです。さらに先生は、「教えたのは、国語じゃなくて、勉強の楽しさや正解した時の達成感を教えた」と言っていました。そんな先生のおかげでぼくは、国語の事が大好きになり、国語の授業が楽しめになりました。  
二年生を終えて、またあの先生と授業をしたいとおもいましたが、先生は転勤をされました。ぼくは、先生に学んだ事を活かして、他の教科も好きになりたいです。  
廣口先生、ありがとうございました。

## ～くすのき先生からのひと言～

先生から勉強の楽しさを教わったのですね。それが作者にとって一つ一つの学習内容以上に大切であったことが、先生と自分を描いた絵からもわかりますね。



# 優秀賞 絵作文

香川大学教育学部附属坂出中学校

3年 小倉 朱理



|  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |                                 |        |        |        |             |
|--|--|--|--|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---------------------------------|--------|--------|--------|-------------|
| た<br>い<br>い<br>で<br>す<br>。あ<br>り<br>が<br>と<br>う<br>ご<br>ざ<br>い<br>ま<br>し<br>た<br>。 | 強<br>の<br>楽<br>し<br>さ<br>を<br>忘<br>れ<br>ず<br>に<br>こ<br>れ<br>か<br>ら<br>も<br>頑<br>張<br>っ<br>て<br>い | す<br>が<br>、<br>先<br>生<br>と<br>学<br>ん<br>だ<br>古<br>典<br>の<br>楽<br>し<br>さ<br>、<br>そ<br>く<br>と<br>題 | れ<br>か<br>ら<br>中<br>学<br>校<br>を<br>卒<br>業<br>し<br>、<br>高<br>校<br>に<br>入<br>学<br>す<br>る<br>私<br>で | 第<br>一<br>歩<br>に<br>な<br>っ<br>て<br>い<br>る<br>の<br>か<br>な<br>と<br>思<br>い<br>ま<br>し<br>た<br>。 | も<br>あ<br>さ<br>ら<br>ぬ<br>が<br>に<br>努<br>力<br>し<br>っ<br>ぱ<br>け<br>る<br>事<br>が<br>上<br>達<br>の<br>一 | 生<br>や<br>友<br>達<br>の<br>お<br>か<br>げ<br>で<br>、<br>得<br>意<br>な<br>り<br>ま<br>し<br>た<br>。何<br>事 | 教<br>わ<br>り<br>ま<br>し<br>た<br>。始<br>め<br>は<br>苦<br>手<br>な<br>古<br>典<br>で<br>し<br>た<br>が<br>先 | 題<br>が<br>で<br>て<br>も<br>解<br>け<br>る<br>よ<br>う<br>に<br>解<br>く<br>時<br>の<br>コ<br>ツ<br>な<br>ど<br>を | っ<br>て<br>ま<br>ま<br>し<br>た<br>。テ<br>ス<br>ト<br>な<br>ど<br>で<br>も<br>ど<br>の<br>よ<br>う<br>な<br>問 | く<br>る<br>内<br>に<br>だ<br>ん<br>だ<br>ん<br>古<br>典<br>を<br>苦<br>手<br>だ<br>と<br>感<br>じ<br>な<br>く<br>な | 人<br>と<br>考<br>え<br>た<br>り<br>、<br>お<br>も<br>し<br>ろ<br>い<br>俳<br>句<br>を<br>紹<br>介<br>し<br>て<br>く | の<br>が<br>先<br>生<br>で<br>し<br>た<br>。ど<br>の<br>よ<br>う<br>な<br>情<br>景<br>な<br>の<br>か<br>を<br>友 | た<br>。そ<br>ん<br>な<br>古<br>典<br>を<br>身<br>近<br>な<br>存<br>在<br>に<br>変<br>え<br>て<br>く<br>れ<br>た | 異<br>な<br>る<br>単<br>語<br>連<br>も<br>暗<br>記<br>で<br>ま<br>ず<br>、<br>苦<br>戦<br>し<br>て<br>い<br>ま<br>し | の<br>意<br>味<br>と<br>昔<br>の<br>時<br>代<br>で<br>使<br>わ<br>れ<br>て<br>い<br>た<br>時<br>の<br>意<br>味<br>が | で<br>し<br>た<br>。こ<br>れ<br>は<br>な<br>り<br>な<br>ど<br>、<br>現<br>代<br>で<br>使<br>う<br>時 | 私<br>は<br>中<br>学<br>校<br>に<br>入<br>っ<br>た<br>頃<br>、<br>古<br>典<br>が<br>と<br>も<br>苦<br>手 | 附<br>属<br>坂<br>出<br>中<br>学<br>校 | 三<br>年 | 小<br>倉 | 朱<br>理 | 枕<br>草<br>子 |
|--|--|--|--|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---------------------------------|--------|--------|--------|-------------|

～くすのき先生からのひと言～

苦手だった古典が得意になったのですね。丁寧に仕上げられた絵からもその思いが伝わってきます。高校でもたくさんの古典に親しんでください。

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ひ | と | に | し | り | な | っ | て | く | ね | ま | す | 。 | わ | た | し | も | せ | ん | せ | い | の | よ | う | な | に | な | り | た | い | と | い | う | 言 | 葉 | が | す | て | き | で | す | 。 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

～くすのき先生からのひと言～

友だちとのトラブル、転んでけがをしたとき、そのあとには先生の優しいまなざしがあります。先生のような人になりたいという言葉がすてきです。



じゅうになりきって、うたうことにしました。ぼくは、やさしいこえでうたえるようになったとおもいます。

しかし、ぼくのふりつけは、みんなよりおくれることがあります。そういうときは、あわてて手をうごかすので、どうしてもみんなとふりつけがあいませんでした。ぼくがこまっっている、小林よう子先生が、「たっぷりいきをすってうたってください。」と、おしえてくれました。だから、かしくか

しのあいだで、大きくいきをすいました。すると、みんなと、うでのふりがあうようになりました。うたごえも、もっどひとつになっただよな気がしました。

小林よう子先生のひいていたピアノは、とてもリズムがよいので、気もちよくうたうことができました。ぼくも、先生のようにかっこうよく、ピアノをひいてみたいとおもいました。音がくのじかんのけんばんハーモニカのれんしゅうか、たのしいです。

アリーナでたくさんれんしゅうをしたので、ほんばんでは、うまくうたえました。ふりつけもおくれないで、みんなとあわせることができました。いままでも、みんなでうたうことはありました。けれども、おとうさんやおかあさんたちにきいてもらうために、みんながかんばったのは、はじめてでした。

ぼくが、小林よう子先生から学んだことは、じぶんがやさしいころになれば、やさしいこえがだせる、ということでした。

コロナウイルスのせいで、せっかくれんしゅうしたうたがうたえなくなるかもしれないのでしんぱいでした。ぼくも、みんなも、先生も、コロナウイルスにまけないようにがんばりました。おとうさんとおかあさんが、あとでパソコンで見たときに、「うまくうたえていたね。」

と、ほめてくれました。はどの子は、ぴょうかいができて、ほんとうによかったです。らい年もみんなで、うたをうたいたいです。

### ～くすのき先生からのひと言～

発表会で歌う場面や振り付けについて、先生の的確なアドバイスをさらに自分でよく考えられたことが臨場感たっぷりにいきいきと表現されています。

# 優秀賞 作文

秋田大学教育文化学部附属小学校

1年 津司 昌宗

はどの子は、ぴょうかいでうたって  
秋大い小 一年Bくみ つし まさむね  
ぼくたち一年生は、はどの子は、ぴょうか  
いで、「かいじゅう」のバラードをうたいまし  
た。うたいながら、りょう手でふりつけます  
るところがむずかしかったです。みんなにあ  
わせるのがたいへんでした。  
うたには、ものがたりがあります。さばく  
でのんびりくらしていたかいじゅうが、とお  
くのキャラバンのすずの音をきいて、人げん  
にあいたくなって、たびに出るおはなしです。  
そのかいじゅうが、いままですんでいたいえ  
をすてて、これからぼうけんに出るとい  
う、つよい気もちをうたっています。  
ぼくは、かいじゅうになつつもりで、大  
きなこえでうたいました。すると、たん  
の小林よう子先生が、  
「きれいなこえで、うたいましょう。」  
と、おしえてくれました。だから、こえを小  
さくして、たかいこえでうたいました。そう

すると、ぼくのこえは、みんなのうたごえと  
あわさって、ひとつのきれいなうたごえにな  
りました。それが、とてもうれしかったです。  
また、かいじゅうは、のぞみをかなえるた  
めに、ねないであるきます。だから、ぼくも  
さばくをあるくつよい気もちでうたいました。  
でも、小林よう子先生は、  
「やさしいこえで、うたってね。」  
と、いいました。そこで、ぼくは、かいじ  
ゅうの気もちをかんがえました。かいじゅうは  
たつまきを見てなきました。かいじゅうは  
いえにかえりたくてかなしいのです。ひとり  
ぼっちであるきつづけて、さみしいのです。  
だから、かいじゅうは、ないたのだとおもいま  
した。かいじゅうは、つよいのに、なきむし  
たいです。でも、それは、さばくをでたから  
よわくなつたのではないとおもいます。かい  
じゅうは、やさしい気もちをもっているから  
なくことができるのだとおもいます。だから、  
ぼくは、つよいだけではなく、やさしいかい

楽しみになった。

また、他の授業でもリモートだからこそできるとおもしい内容を先生達が考えてくれた。社会の川村先生は、家にいるからこそできる楽しい授業だった。日本の食料生産の單元では、家の冷蔵庫の中の食材がどの具で作られているのかを調べて、発表し合った。

「私の家では〇〇産が多かったよ。」

と、友達と意見を交わすことで、友達と自分の家の産物を比べて、さらに自分の考えを深めることができた。

音楽の村上先生は、「家にある身近な物を楽器にして、色々な音を出してみよう」という授業をしてくれた。みんなの家にある物がそれぞれ違うから、色々な音を聞くことができる。例えば、同じスプーンでも、形や素材によって、出る音が違う。家だからこそ新しく出せる音を深めて、共有し合うことで、たくさん音を楽しむことができた。

体育の小林先生は、家の中でも簡単に体を

動かすことができるストレッチを行ってくれた。ボールを使用して体をのびたり、足を広げてじゅっなん体をそうしたりと、リラックスすることができた。ソールラン節をみんなでおどった時は、リモートだったけれどみんななどの一体感を覚えることもできた。一日中画面を見て座っていることが多い中、体育の授業で体を動かすことで、次の授業へのやる気のスイッチを入られた。

先生達の、リモートだからこそできる、工夫された授業を受けることで、私は日が経つごとにどんどん楽しくなっていた。リモート授業が始まった初日、あんなにいやでたまらなかつた気持ちだが、日に日に楽しみな気持ちに変わり、次の日が待ち遠しくなった。

うとなつては、リモート授業を経験し、多くのことを学んだことが、私の今の学校生活にも生かされている。リモート授業で、新しい学びを教えてください先生方に感謝したい。

先生方、ありがとうございます。

### ～くすのき先生からのひと言～

新型コロナ禍でのリモート授業。それを少しでも楽しく充実した学びとするために工夫をしてくださった先生への感謝の思いが丁寧に書かれています。



# 優秀賞 作文

茨城大学教育学部附属小学校 5年 園部 柚玲彩

リモート授業での新しい学び  
茨城大附小 5年 園部 柚玲彩  
夏休みがもつすぐ終わる頃、私は学校が始まるのを心待ちにしていた。  
しかし、その一方で、新型コロナウイルスの感染が再び広がりに、いつも通りに学校が再開されないのではないかと、いつも不安も高まっていた。  
そして、その不安は的中した。学校には行くことができず、今まで私達が経験したことのない、リモートでの授業になった。  
リモート授業の初日、私はいやでいやでたまらなかつた。それは、実際に学校に行けなくて先生や友達に会えず、一日中ずっと画面の前で授業をしていなくてはいけなかつたからだ。  
でも、緊急事態宣言が解除されるまでの約一カ月間ずっと、私がリモート授業を続けることができたのは、先生達が、みんなが楽しめる授業を、と工夫してくれたおかげだと思

う。  
私の担任の中山先生は、朝の会にクラスの人々と話せる時間を作ってくれた。毎日遠くからバーでミーティングルームを作成してくれて、リモート授業だからこそ、いつもは話せない友達とも話すことができた。家での出来事やペットの話など、たあいもない話で盛り上がった。朝の時間にみんなと話ができることで、まるで学校の朝の教室のような、ふだん通りの雰囲気です。リモート授業に慣れてくることができた。  
また、みんなが外出できない状況の中で、季節の花の様子をよく話して聞かせてくれた。最近ではキンモクセイの花がきれいになっていい香りがするよ。  
今日は学校の校庭に、彼岸花がさいていたよ。  
など、外の季節の花の様子を想像できるような話は、家にずっといるのが大変な中で、ちよっとした季節の変化を感じることができ

めてくれているのは、担任の先生です。私の担任の先生は、二年連続同じ先生です。でも一年の時と、二年の時と、同じ先生なのに、何か違って感じるので。その違いが何なのかは分かりません。自分が中学校や先生に慣れてきたのかもしいし、クラスメイトの影響があるのかもしれない。ただ、一年の時からずくと変わらないのは、  
「何も言わないけど、いつも見てるよ、見られてるよ」という空気です。そして、その先生の空気の中で、クラスの一人一人が個性を大切に、自分で考えて発言したり行動すること、で、クラス全体が前向きで明るい方向へ進んでいけていると思います。  
先生が私の愛なところをおもしろく話してくれると、なぜか笑ってしまふのと同時に、背筋がピンとなって、心か引き締まるのを感じます。「いつも見てるよ、見られてるよ」の空気は、私の中で自分の行動に責任をもつて、しっかりやらなくては、という気持ちの変化

を起こしています。  
また、部活でも、その空気を感じていて、より良いチームワークを作るために、今自分に来ること、チームのみんなに上手く伝えたい、という気持ちが生まりました。せっかく同じ部活を選んだチームのみんなと、残りの部活での時間を大切に、心も体も鍛えていきたいです。  
そして、中学校卒業の時に、「いつも見てるよ、見られてるよ」の空気の中で、自信をもつて成長出来たと感じられるように過ごしていきたいです。  
私は小学校、中学校の担任の先生から受けとったエールを大切に、これからの私に誠実に向き合っていていきたいと思っています。

### ～くすのき先生からのひと言～

小学校卒業時に先生から贈られた言葉を今振り返ったとき、そこには現在の自分と真摯に向き合う14歳の自分があることがよく書けています。

# 優秀賞 作文

香川大学教育学部附属坂出中学校

2年 安藤 ひかり

「先生から受けとったエッセイ」  
附坂中 二年 安藤ひかり  
「誠実」そのまままっすぐに  
これは、小学校卒業の時に、担任の先生が私に贈ってくれた言葉です。私はその時、「誠実」という言葉の意味が分からず、調べたことを覚えていません。  
「誠実：真心をもって、人や物事に対すること。誠意があつて、いつわりなくまじめなこと。」  
先生が贈ってくれたこの言葉は、小学生の頃の自分を大切に、中学校という新しい環境の中で、誠実にそのまままっすぐに進んでいって欲しい、というエッセイだと思いました。そして私にとつて、とても心強く、忘れることのない言葉になりました。  
中学生になり、もう少しで二年が過ぎようとしています。中学校での毎日が、誠実にまっすぐに過ごさせているかどうか、正直自分でも分からないし、自信がありません。でも、今回

冬休みの課題で、先生との思い出を思い出してみても、誠実という言葉と向き合ういい機会になりました。そして、自分の気持ちにまっすぐにいたい、という自分に気づくことが出来ました。  
小学生の頃の自分と、中学生の自分、そしてこれからの、未来の自分はつながっています。先生から贈られた言葉を時々思い出しながら、成長していきたいと思えます。  
そして今、中学二年の私は、クラスが一回変わりました。クラスメイトが変わると、新鮮な気持ちになって、自分の考えや行動も影響を受け、その中で少しずつ順応していついていけると感じます。また、クラスの雰囲気やカラーは、クラスメイト一人一人の雰囲気やカラーで決まっていきたいと思います。同じことをしても、クラスメイトがどう反応するかによって、自分も今までと違つた気持ちを持ち、今までと違つた行動になるからです。  
そして、そんなクラスの雰囲気をも一つにまと

## 審査委員長講評

この「作文・絵作文コンクール」のテーマは、「先生へのメッセージ」や「先生との思い出」です。

第4回目を迎えた今年も全国の国立大学の各附属学校から、たくさんの素晴らしい作品の応募がありました。そこには、一昨年から続く新型コロナ禍にあって、子どもたちの安全安心に細心の注意を払いながら、なおかつ確かな学びや豊かな体験を成立させるためにご苦労されている先生方の姿が書かれていました。

私は現場にいる間、子どもたちに「将来何になりたいか」だけではなく「将来どんな人になりたいか」をずっと問いかけてきました。「将来何になりたいか」の問いに子どもたちが考えて答えるとき、それは、野球選手、大工、保育士、教員と、「職業」に関わるものとなります。一方、「将来どんな人になりたいか」と問いかけると、子どもたちからは、「優しい人になりたい」「親切な人になりたい」「正直な人になりたい」さらに言えば、そうした生き方を子どもの前で示している「お母さんのような人になりたい」「〇〇先生のような人になりたい」といった答えが返ってきます。これらは、「生き方」に関わるものです。私は、子どもたちには、「将来何になりたいか」「将来どんな人になりたいか」この二つをもって夢・志としてほしいと考えます。

今年の作品の中には例年以上に「先生のような人になりたい」との言葉がたくさん見られました。新型コロナ禍の中にあって、がんばっておられる先生方の様子を子どもたちは実によく見て、一人ひとりに関わり、認めて、ほめて、励ましてくれる先生方の温かいまなざしを感じ取っているということです。それはまさしく素晴らしい教育の形である「感化」に他なりません。

## 審査委員長略歴

1961年生まれ、徳島県鳴門市在住。鳴門教育大学大学院修了。

小学校教諭、鳴門市立図書館副館長を経てオフィスKUSUNOKIを設立。現在は作家として児童文学を中心とする創作活動と講演活動を続けている。

絵本『おこだでませんように』（小学館）が2009年度全国青少年読書感想文コンクール課題図書に、2011年には、IBBY（国際児童図書評議会）障害児図書資料センターが発行する推薦本リスト「世界のバリアフリー絵本」に選出される。同作品で第2回JBBY賞バリアフリー部門受賞。2013年には『メガネをかけたら』（小学館）が全国青少年読書感想文コンクール課題図書に選定される。

『ええところ』（学研）、『ともだちやもんな、ぼくら』『ええことするのは、ええもんや』（共にえほんの杜）『ダメ!』（佼成出版）『しょうじき50円ぶん』（廣済堂あかつき）等、教科書掲載作品をはじめ、『Life(ライフ)』（瑞雲舎）、『あなたの一日が世界を変える』（PHP研究所）『海に見える丘』（星の環会）、『いちねんせいの一年間』シリーズ（講談社）、『すこやかな心を育む絵本』シリーズ（廣済堂あかつき）など、140タイトルを超える児童文学作品は、日本および海外で広く読まれている。

- ・日本児童文芸家協会評議員・徳島児童文学会会長
- ・四国大学文学部非常勤講師（絵本・児童文学創作）

くすのき しげのり オフィシャルホームページ

<http://www.kusunokishigenori.jp/>

審査委員長 児童文学作家 くすのき しげのり



# 優秀賞 作文

北海道教育大学附属特別支援学校

柏谷 翔唯

木工作業との出会い  
北海道教育大学附属特別支援学校  
高等部二年 柏谷 翔唯  
僕の担任の加藤先生は、楽しくて面白い先生です。話をしているときはいつもジョークを言っていて笑いが絶えないので、毎日が楽しいです。授業も休み時間も、給食時間も、修学旅行も、全部が楽しい思い出です。加藤先生は木工作業の先生をしていて、木工製品を作ることが好きです。僕は高等部一年生からずっと木工作業班で活動をしていました。木工作業は夢中になる楽しさがあります。これまで、サイドテーブルやスマホスタンド、踏み台、えんぴつ立てを作って販売会などで販売してきました。

僕が一番思い出に残っているのはサイドテーブル作りです。加藤先生にとっても初めて作る製品だと言っていました。最初に来た製品は、テーブルの表面はデコボコになってしまいました。でも、加藤先生と相談しながら

い何個も作っているうちに、段々デコボコが少なくなりました。いききれいな仕上がり製の完成しました。加藤先生も「よか。た〜!」と一緒に喜んでいました。このサイドテーブルは今年の販売会で一番売りが高かったです。製品になりました。

木工作業は、一度完成しても、次にまた作る時には「これをこうすればいいんだ」と気づいたり、いろいろな作り方があることがおもしろい。エ夫のしかりかあって、奥が深いです。加藤先生は道具の使い方や、製品を美しく仕上げるコツを教えてくださいました。一緒に製品を作っていると新しい発見があります。

三年生になったり作業班で卒業制作となる製品を作ることになるのですが、僕は加藤先生と本立でやサイドテーブルを一緒に作りたいです。

～くすのき先生からのひと言～

木工作業の中でも思い出に残る、先生と試行錯誤しながらサイドテーブルを作ったときの様子や、工夫を重ねることの大切さがいきいきと書かれています。



- ・主催 一般社団法人 全国国立大学附属学校PTA連合会
- ・担当 広報委員会
- ・発行日 令和4年6月